

ICT囲いわなを活用したイノシシ被害防止対策(沖縄県石垣市)

- 石垣市有害鳥獣対策協議会(石垣市、県、JA、製糖工場、猟友会等)による鳥獣被害防止総合対策事業を活用したICT囲いわなの導入・設置
- 囲いわなを導入した地域の周辺にイノシシが出没したことで、警戒範囲(出沒範囲)の特定がしやすくなり、銃器等による駆除効率アップ

取組内容

- 市、協議会、実施隊等が役割分担し、地域ぐるみの捕獲体制を構築
3組織を主軸に、農協や農業者など地域全体での管理や捕獲活動を実施



石垣市
有害鳥獣対策
協議会

石垣市

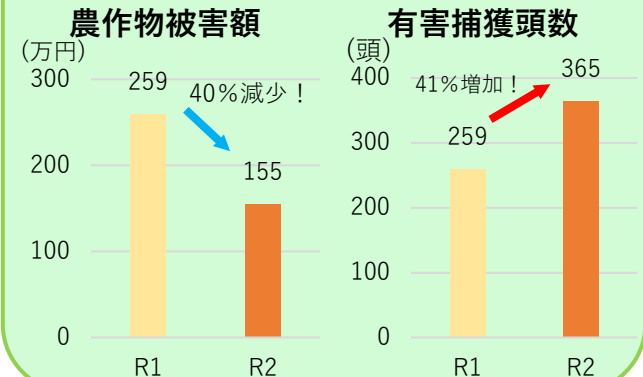
実施隊

- ICT囲いわなの設置及び農家の自己対策の推進



成果

- 地域ぐるみの取組により、地域全体の鳥獣被害防止への意識が向上
- 垣根を越えた捕獲体制の構築と有害捕獲等への取組により出沒頭数が減少
- R元年度とR2年度を比較すると、農作物被害額は4割減少し、イノシシの有害捕獲頭数も3割増加



今後の取組

- 今後も電気柵等の自己対策と併用し、更なる効果増大を目指す

ICT囲いわなを活用したイノシシ被害防止対策(沖縄県石垣市)

きっかけ・背景

- 農村地帯である石垣市北部において、イノシシ等の有害鳥獣の被害が多く発生

課題

- 狩猟者の高齢化や担い手不足の面から、箱わなやくくりわななどの捕獲が推進されているが、捕獲確認などの見回りが広域にわたるため、作業者の負担が課題

Step1 実証実験

(H29～H30)

- 平成29年10月～平成30年7月にかけて、わな取扱い業者がICT囲いわなを実証実験。上記期間に46頭捕獲

Step2 導入の検討(H30)

- 石垣市有害鳥獣対策協議会を設立し、実証実験の結果の報告及び次年度のICT囲いわなの導入について協議

Step3 導入場所の選別

(H30)

- 特に出没が多い区域の調査、ICT囲いわなの導入箇所等を地元農家や猟友会等と話し合い、導入圃場を選別

当初、ICT囲いわなを設置した北部地域は、市街地から車で50分程かかり、駆除作業者の負担が大きいと想定したが…

取組の特色

- 最北端でわなを仕掛けてもなかなか見に行けない場所であるが、ICTを活用することで、現地に行かなくてもわなの状況が把握出来るので、地域の状況とわなの特徴とが合致
- 駆除実施者の作業負担が軽減し、作業効率もアップ

取組による成果・効果

- 囲いわなの成果は令和2年度で8頭であるが、囲いわなを導入した地域の周辺にイノシシが出没したことで、猟友会等の警戒範囲(出没範囲)の特定がしやすくなり、銃器等による駆除効率がアップ
- 北部農家からの駆除依頼も減少し、被害は減少傾向との声

